

報告日 令和7年12月2日
報告回次 2回目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	長野県教育委員会事務局			代表者名	向井健太郎
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	心の支援課	連絡先電話番号	026-235-7450
担当者役職	指導主事	担当者氏名	召田誠	連絡先E-mail	
住所	380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署
担当者氏名	連絡先電話番号

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	性被害防止教育キャラバン隊
概要	学校に対して県警スクールサポーターを情報モラル講師として派遣する事業を年100件以上行っている。地域ごとに配置されたスクールサポーターは、学校での情報機器の利活用を推進するとともに、トラブル事例にも対応している。スクールサポーターが専門的な知見をもって活動ができるように支援をお願いしたい。		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 教育情報化／情報教育		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年11月26日	講演（実地）	13時00分	16時00分	
				活動時間（分）	180
2-2. 派遣場所	会場名	長野県庁	最寄駅	JR長野駅	
	所在地	長野県長野市大字南長野字幅下692-2	最寄駅からの交通手段	バス	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	安藤 未希
評価	大変良い
上記評価の理由 (どのようなところがよかったです等詳細に)	・最新の事例について扱っていただき、偽情報、誤情報、ディープフェイクなど、情報モラルに関する新たな知見と視点を提供していただいた。 ・次期学習指導要領改訂に関係して、情報リテラシーを高めていく方向性についてのアドバイスが得られた。 ・実際に学校で講演をされている立場で、講演前にどのようなことを重視して打ち合わせをしているか等を共有していただくことで、スクールサポーターの今後の活動の参考となった。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	14人	
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	14	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	スクールサポーターは県内の学校で児童生徒向けに講演を行っているが、警察OBということもあり、機器や情報に疎い場合もある。また、「情報を扱うことは危険である」という従来の価値観を持っていることもあり、情報を正しく安全に使うという認識が不足していることが課題である。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	スクールサポーターが自信をもって小中高校生に講演が出来るよう、子どもたちがどのように情報と接しているか、学校でどのような使い方がなされている課を認知し、情報リテラシーの知識を向上させる。 今回の支援では、事業の実情を共有するとともに、スクールサポーターの情報リテラシーを向上させるために、どのような支援内容が適切であるかを共有する。
アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	・生成AIによって作られた画像や動画の実例 ・「危険」という言葉を使わなくても、危険性は伝わること。 ・触れている媒体で施行が形成されること。（気に留めておく、ちょっと考える、調べる） ・講演の際には、事前打ち合わせ（アンケート等で児童生徒の様子などを把握）を重視すること。 ・保護者にも積極的に案内し、地域を巻き込んだ講演にしていく。

支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や保護者は「危険」というキーワードにたくさん触れている。「危険」というキーワードを使わなくても危険性は伝わっているので、自信を持って対応する。 情報リテラシーや情報モラルについての講演をより効果的にするため、事前にアンケート調査等により児童生徒、保護者、教職員の実態を把握する。 生成AI（画像や動画）が簡単に作れるようになっており利活用も進んでいることから、頭ごなしに「ダメ」というのではなく、常に勉強して最新の動向に注意していく必要性を再認識した。
具体的な成果物	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑦その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援を受けたスクールサポーターの情報リテラシーが向上し、児童生徒、保護者、教職員への指導に反映されることが見込まれる。特に、ファクトチェック、生成AIについて新たな知見を得ることができた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの情報機器への接触時間について、もう少し話を聞きたかった。 トラブルになったときどうするかなどの対処方法についても知りたかった。
アンケートの内容と分析結果	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。）</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>講演内容について参加者すべてが「よく理解できた」「どちらかといえば理解できた」と回答 自由記述では、・ファクトチェックの重要性・生成AIの使い方・ディープフェイクについて・子どもたちはある程度AIを受け入れていること・初めての視点や話題が豊富であり大変勉強になった、等が寄せられた。</p>
4-3. 今後の計画	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい ④予算以外で、今後取組む事項がある</p> <p>教職員・児童生徒・地域住民（保護者等）の情報リテラシー向上のため、講演内容等を修正し充実させる。</p>
4-4. 事業の最終的な目指す姿	スクールサポーターの情報リテラシーを高め講演内容を充実させることで、学校に通う児童生徒や保護者である地域住民が情報を正しく利活用できるようにする。

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

なお「その他」を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

